

学校教育目標	一人ひとりが輝き、学ぶ喜びと笑顔があふれる学校
目指す学校像	
重点目標	1 確かな学力の定着と向上を目指す学校づくり 2 豊かな心と健やかな体の育成を目指す学校づくり 3 地域に開かれた特色ある学校づくり 4 安全で美しい学校づくり 5 教職員の指導力向上を目指す学校づくり

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標				年度評価			実施日 令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1 学びの質の向上	(現状) ○授業では、意欲的に取り組む児童が多くいる一方、集中力を欠いている児童も少なくない。 ○令和6年度さいたま市学習状況調査の結果から、3・4年生(国語・算数)、5・6年生(国語・算数・社会・理科)の平均正答率は、ほぼさいたま市の平均を下回っている。 (課題) ○学ぶことの楽しさや学びに対する興味・関心を高め、学びの達成感や充実感を味わえるようにする必要がある。 ○反復や習熟に取り組む時間や、自らの学びを振り返る時間の確保しつつ、基礎的・基本的な学力の確実な定着を図ることが必要である。	○達成感や充実感を味わえるよう、個々の学習指導と支援をより大切にしたい授業の工夫 ○ICTを活用して、児童と教師が共に学び合う授業の工夫	①個に応じた細やかな指導と支援をする。 ②めあてを明確にし、振り返りを行う。 ③デジタルドリル等を活用した練習問題に計画的に取り組めるようにする。 ④学力向上カウンセリング研修と各学力調査の結果の分析に基づいた授業改善を行う。	・児童の学校評価 No2「わかりやすく楽しい学習」と、No3「基礎的な計算や漢字の定着」で肯定的評価がともに昨年度より2%以上向上できたか。 ・学力向上カウンセリング研修と学力調査の結果に基づき授業改善の方策を立て、実施することができたか。				
2 児童への支援	(現状) ○楽しそうに学校生活を送る児童が多く見られる。令和6年度児童の学校評価では、「喜んで登校している」で肯定的評価は83%となっている。 ○定期的にSolaの一むの利用がある。 ○月1日教育相談日を設けている。 (課題) ○良好な友達関係を築き、継続できるようにすることが必要である。また、保護者との連携も大切にし、共通理解を図る必要がある。 ○学習や友人関係等によるストレスを抱える児童が少なくないため、児童の表情や心の変化を見逃さないよう一人ひとりの様子を把握し、迅速に支援・相談できる体制が必要である。	○児童一人ひとりの理解に基づいた指導と支援の充実 ○児童一人ひとりに寄り添って、保護者と連携した教育相談の充実	①担任をはじめ、学年の教員、専科教員等複数の目で児童の様子を見る体制を整える。 ②SSDBや各種アンケート等を活用して児童の様子を把握し、個に応じた指導・支援を速やかに行う。 ③率先垂範を心掛けるとともに、共通理解のもと、生徒指導を行う。	・児童の学校評価 No8「先生への相談」で肯定的評価が昨年度より2%以上向上できたか。 ・いじめをはじめ友人関係の問題を覚知した際には、「報・連・相・見守り」のもと組織的に対応することができたか。				
3 地域とともにある学校	(現状) ○学校運営協議会にて、目指す児童の姿について熟議している。また、城北中学校と年1回の学校運営協議会を共催している。 ○連絡ツールを活用し、学校・学年たより等のお手紙が保護者に確実に届くようにしている。 (課題) ○学校運営協議会における熟議の内容を、家庭や地域に周知していく必要がある。 ○学校Webページ等を活用して、学校生活の様子や教育活動への理解を高める必要がある。	○児童の愛校心や学校への誇り等を一層高める学校づくりの推進 ○保護者や地域の方々への信頼を高める取組の推進	①学校だより等を活用して、児童・保護者の皆様・地域の方々に開校50年の歩みを紹介する。 ②PTAや学校運営協議会と協力し開校50年記念行事を計画的に実施する。	・計画した記念行事を実施することができたか。 ・記念行事実施後、愛校心や学校への誇りに関するアンケートにおいて、児童の肯定的回答が60%以上になったか。				
4 教育環境	(現状) ○開校50年目となり、校舎内や体育館内で修繕を必要とする箇所が多く見られる。 (課題) ○児童や教職員等の安全を考え、教育委員会に粘り強く交渉するとともに、優先順位をつけて学校配当予算で対応する必要がある。	○安全・安心で落ち着いた教育環境整備の実現 ○児童が学びやすい環境整備の実現	①管理職や事務主事、用務員と連携した課業日の校舎内外巡視を実施する。 ②教育環境の整備と教材の充実に向け、全職員で安全点検を実施する。	・毎月安全点検が実施できたか。 ・施設、備品の点検を通して、環境が整備された状況を実現できたか。				
5 教職員のキャリア形成	(現状) ○経験の浅い教員が多く、中堅・ベテラン教員の助言・指導の下、児童の指導に当たっている。 ○意欲をもって、指導力を高めようとしている。 (課題) ○教員間での授業や生徒指導、学級経営等の指導力について改善を図る必要がある。 ○OJTによる教職員の学びを進める必要がある。 ○教職員の成長が実感できる研修や対話に基づく受講奨励を通して、主体的な教師の学びが必要である。	○明るさのある職場づくりの実現 ○教職員を育成する学校経営の実現	①教職員同士のコミュニケーションを大切にするとともに、お互いの業務に興味・関心を高めるようにする。 ①こまめな教室訪問とコーチングを心掛け、教職員の業務の様子をよく把握し、適切な支援と指導を行う。	・授業や行事等における協力体制を高めることができたか。 ・職場環境と満足度を高めることができたか。				

